



No. 180

三木市剣道連盟
広報部

2017 (平成29) 年
7~11 月号
11月28日(火)発行

- 第64回東区親善剣道大会結果(1, 2面)
- 剣道指導者研修会(2面)
- 三木市中学校総体(3面)
- 三木市中学校新人大会剣道の部(4面)
- 第36回青少年健全育成剣道大会(5・6面)

◎本紙は三木市剣連HP (<http://mikikenren2011.web.fc2.com/>)でもご覧になれます。PDFでカラー印刷できます。

第六十四回東播地区親善剣道大会 A・Bチーム 善戦健闘するも上位入賞を逃す

第64回東播地区親善剣道大会が、8月20日小野市匠台アクトにて開催され、我が三木市剣道連盟からは、若手主体でA・B2チームが出場した。

Aチームは組み合わせ確定から予選リーグ突破を目標に稽古を積んだ本命チームで、先鋒川人優亮(三段)次鋒に大学生石原希美(三段)中堅は新規加入の植林(四段)副将山口直輝(四段)(兄)大将西本英一郎(五段)。

予選リーグ第一試合は対西脇市Aで、この試合が最大の山場であったが、惜しくも大将戦にて逆転負け! 2対2の本数負けで早くも予選リーグ敗退濃厚となつてしまった。

次戦は、対加古郡Bに5対0、

三試合目は、対小野市Aに4対1で勝利したが、西脇市Aが3試合全勝でリーグを突破した。

Aチームの課題は、絶対的な大将の育成が皆の期待とするところである。今後の西本、山口兄の活躍を応援したい。

次にBチームだが、先鋒各務准矢(二段)次鋒新規加入の中森中堅学生の低田優(三段)副将小阪祐貴(四段)(弟)大将渡辺慎平(四段)で臨んだ。強敵明石Aとの第一試合、戦前の予想では圧倒的不利と思われたが、なんと全員が繋いで大将渡邊慎平が勝利し、2対1で強敵明石Aを退けた。

第二試合、加西市Aチームとの対戦は、1対1で同点同本数

の引き分け。最終的に優勝した加古川Aには、4対0で敗戦し、結果1勝1敗1引き分けのリーグ3位となつて、結果A・B共に目標の予選リーグ突破はならなかった。

試合を終えてまず、学生枠が思った以上に活躍できていないという課題がある。大学4年生は、就職活動などの影響で稽古不足なのだろうか?と考へてしまふ。

次に、チーム構成、若手主体の為仕事などの休み調整がギリギリまで決まらず、メンバー決定が読めなかったことが課題である。今後は、A・Bチームの入れ替えなどを含めた、再度戦略的

なチーム構成を考えたい。近年、若手中心でチームの若返りが進んでいる中、各市とも加古川、明石を除いては、力の差は、ほとんど無くなつてきている。来年に向けてまた、一本の重み、また三木市剣道連盟の郷土愛を胸に稽古に精進してもらいたい。(Aチーム成績) (報告 松本克基)

	先	次	中	副	大	本	勝
西脇A	村岡	三和田	岡崎	西田	山本	4	2
	⊗ツ				⊗メ		
三木A	川人	石原	植林	山口	西本	2	2
			⊖	⊗			

	先	次	中	副	大	本	勝
三木 A	川人	石原	植林	山口	大西本	9	5
	⊗メ	⊖	⊗メ	⊖メ	⊗メ		
小野 A						0	0
	牧本	金本	愛甲	永山	藤野		

三試合目 对小野市 A

	先	次	中	副	大	本	勝
三木 A	川人	石原	植林	山口	大西本	9	5
	⊗メ	⊖	⊗メ	⊖メ	⊗メ		
加古郡 B						0	0
	新宅	金本	愛甲	永山	藤野		

二試合目 对加古郡 B

	先	次	中	副	大	本	勝
加西	南古	苦澤	達可	三田井	大光石	4	1
	△	メ	⊗	メメ	△		
三木 B						4	1
	各務	中森	低田	小阪	渡邊		

对加西 A

	先	次	中	副	大	本	勝
明石 A	多田	東元	古畑	石川	大藤井	2	1
	△	△	⊗	△	メ		
三木 B						3	2
	各務	中森	低田	小阪	渡邊		

(B チーム成績)

对明石 A

三木コミュニティスポーツセンターにおいて、剣道連盟会員及び市内高校剣道部員32名が参加し、兵庫県警剣道師範、教士八段伊藤明裕先生の講師で剣道指導者研修会が行われた。伊藤先生は今年4月に開催された全剣連主催の中央講習会に参加されたその内容に沿って指導頂いた。午前10時開会式の後、午前中は日本剣道形10本目までと、その理合いを、午後は木刀による基本技稽古法の実技昇段模擬審査と中身の濃い研修だった。

日本剣道形・木刀による 基本技稽古法を教わる 剣道指導者研修会

	先	次	中	副	大	本	勝
加古川 A	阪本	阿部	中村	堀江	林	7	4
	⊗メ	⊗コ	⊗	⊗メ	△		
三木 B						2	0
	各務	中森	低田	小阪	渡邊		

对加古川 A



(報告 神澤 正輝)

一変、秋を思わせるありがたい気候の中、最後に40分の合同稽古を行い充実した研修会を終えた。

ち込み稽古は、「掛り手主導で、掛り手が打とうとする兆しを観て元立ちが機会をつくる」これを、「元立ち主導でお互い合気になったところを元立ちが打つ機会を与えて、掛り手が瞬時に打つ」この稽古を始める時、「掛り手はいつでも打つ構えがある。また元立ちは打つ機会を与える」という気遣いがある」という少しの違いが全く違う動きになった。また、掛り稽古とは「掛り手は次々に技を体力の続く限り出し、元立ちは一本も打たせない様、返す、すりあげ、打ち落とす時には出端を打つ」と打ち込み稽古と、掛り稽古の内容の違いを理解して指導をしてほしいと講師の要望があった。猛暑から



特に、午後行われた、木刀による稽古法を剣道具着装し打突する指導は、今までやってきたことの違いに、まさしく目から鱗である。今までやってきた打